

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第3回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

・地域活動支援事業について（採択事業の決定）

(2) 自主的審議事項（公開）

・津有区の特長を生かした地域活性化策について

3 開催日時

令和4年6月13日（月）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：猪俣敦子、大滝英夫、千代金治、相馬祐一、田中博三（副会長）、中島 功
藤本孝昭（会長）、古川勝夫、古川 仁（欠席2名）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

・会議録の確認者：猪俣委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業について（採択事業の決定）」に入る。

事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1 により、採点票の集計結果を報告
- ・協議の手順を説明

【藤本会長】

今ほどの説明について、質問を求める。

(発言なし)

審議を進めていく。

まず、「(A) 採否の決定」を行う。

採点結果では、「即不採択の事業」や「評価の低い事業」はなかったため、基本的にはすべての事業を採択できるが、何か意見等あるか。

(発言なし)

全ての事業について、「採択すべき」と思う委員は挙手願う。

(全員挙手)

では、全ての事業を採択することと決定する。

次に「(B) 補助額の決定」を行う。

現在、津有区の配分額に対し、補助希望額が下回っているため、全ての事業を希望額どおり採択することが可能である。

しかし津有区地域協議会として、支援することが適当ではないと考える経費等があれば、発言願う。

(発言なし)

全ての事業について、「希望額どおり採択」としてよいと思う委員は挙手願う。

(全員挙手)

では、全ての事業を希望額どおり、採択することと決定する。

最後に「(C) 附帯意見」について協議する。

採択した事業については、地域協議会からの附帯意見（採択の条件）を付けることができる。

附帯意見が必要と思う事業がある委員の発言を求める。

【古川 仁委員】

採択にはあまり関係ないが、先般ヒアリングをした際、津-4の戸野目スポーツ少年団の方が、「子どもが減っている」と話していた。

子どもは少なくとも、ぜひ勧誘等をして、今よりも人数を増やしてほしいと思っている。参考までの意見である。

【藤本会長】

戸野目スポーツ少年団は、現在構成員が女子バレーボールで17人と話していた。それについて、ぜひ人数を増やすような努力をしていただきたいということだが、これを附帯意見として入れてしまうと、現在の17人よりも必ず人数を増やさないといけないことになる。そのあたり、事務局より補足等あるか。

【山崎主事】

例えば、地域協議会でこういった話があったということで、過去には「地域協議会からの所見」というかたちで、採択の条件の附帯意見とはせずに、通知に載せて提案者へ伝えたことはある。

もしもその必要があれば、そのような対応も可能である。

【藤本会長】

附帯意見となるとかなり拘束力を持つことになるが、そうではなく「参考までに」ということで、「ぜひ増員の努力をしていただきたい」と、地域協議会からの所見として通知文に載せられるとのことである。これについて意見等あるか。

【中島委員】

議事録に載っていればよいと思う。所見まではいらないと思う。

ゲートボールもそうであり、他の地域参加型の事業、全てに言えることだと思う。

【相馬委員】

中島委員の意見と同様である。

活動している人たちは頑張っていると思う。それで増えるか否かは別問題であり、今は子どもが少ない状況であるため、そこまでは必要ないと思う。

【藤本会長】

他に意見等あるか。

【大滝委員】

地域としては数が多いほうがよいということは分かっているが、現状として主体と

なっている人たちは、それなりに活動していると思う。

そのため、あえて所見も付けなくてよいと思う。

【猪俣委員】

本当に子どもの人数が少なくなってきており、自分の子どももバスケットボールをしていたため、指導者の人たちの苦労を本当に目の前にして見てきた。

この場に出て来て、「予算をください」と提案することは、本当に覚悟がいることだと思う。

期待は持っていたいが、これからも引き続き頑張ってもらいたいという気持ちを込めて、自分は点数を付けた。

所見は載せなくてもよいと思う。

【古川 仁委員】

その方向でよい。

【藤本会長】

「これからも頑張ってもらいたい」とあえて言うのであれば、「地域協議会としても増員に対して、積極的に応援している」といったメッセージが伝わるとよいと思う。

【千代委員】

提案団体に採択の通知文が出ると思うが、その項目の中に「津有区地域協議会より応援メッセージがある」と載せることができれば、団体も勇気が出ると思う。

それはできるか。

【藤本会長】

それは文字にはせず、議事録に残っていればよいとの意見が多かったが、それでもあえて載せたほうがよいか。

【千代委員】

団体に地域協議会からのメッセージが伝わればと思い、通知文にメッセージを入れてはどうかと思った。

【小林センター長】

附帯意見や所見として記載するほどではないので特に記載はしないが、事務局から郵送する連絡用紙の中に、「地域協議会としては、広く、多くの人が活動されることを祈念している」といった文言を付したいと思う。

(よしの声)

【藤本会長】

バックアップしているということが伝わればよいと思うので、他の事業も含め全事業について、附帯意見はなしとしてよいと思う委員は挙手願う。

(全員挙手)

なお今回の審査をもって、地域協議会としての立場での地域活動支援事業に関する事業採択についての審議は終了となる。これまでの活動を踏まえ、次回の会議で今回の採択までの一連の流れについての感想を一言ずついただき、総括をしておきたいと思う。

【中島委員】

今回、採択が決定したわけだが、「津-7」の事業である、献碑祭が7月1日に行われる。このあとの事務に時間がかかってしまうと思うので、審査結果をもっと早くに連絡してあげたい。

【小林センター長】

その点は、採択された全団体に対して、明日電話で結果をすぐにお伝えし、事業を進めていただくこととしているため、心配はいらない。

【藤本会長】

申請書を提出した時から支出は可能となっており、事業が採択されると、補助金から捻出することができるという決まりになっていると思う。そのため、焦らなくても大丈夫だと思う。

以上で次第2 議題「(1) 協議事項」の「地域活動支援事業について（採択事業の決定）」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」に入る。

事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・グループワークについて説明

【小林センター長】

- ・補足説明

【藤本会長】

「地域を元気にするために必要な提案事業」については、地域協議会独自で話し合

うだけでは駄目で、周りの意見も聴取し、まとめ上げていく必要があると説明があった。

本日は、来月予定する意見交換会に、どのような人を呼び、どんな話をしたらよいかについて、検討していきたいと思う。

ではグループに分かれて始めてほしい。

— グループワーク (45 分間) —

会議を再開する。

各グループより発表願う。

最初に自分より発表する。

「前島密に特化したリーフレット作り」ではなく、やはりプラスアルファがあったほうがよいということ、最初に話し合った。

そうは言っても、前島密も大きく関わるため、少なくとも前島記念館の利根川館長、前島密翁を顕彰する会の堀井会長の名前が上がっていた。

そして、他の人たちについては2つの視点に分かれた。

1 つは、地域の代表の意見を聞くことである。町内会長連絡協議会と地域づくり協議会の名前が出たが、会長が同じ人であるため、町内会長協議会からは会長、地域づくり協議会からは事務局長より参加いただいではどうかとの話となった。

もう1つは、地域のことをよく知っている有識者を呼んではどうかとの意見があった。また行政関係で文化振興課、そして公民館により資料があったため、公民館関係で社会教育課、そして歴史博物館の学芸員、小・中学校の先生たちに来てもらってはどうかとの意見があった。

次に、「聞きたいこと・話したいこと」についてである。

1 つ目は、地域にどのような偉人がいたのか、歴史的なこと、風土や自然、民族学的なことで逸話・昔物語・民話、あとは方言や賽ノ神といった、地域の独特な文化などについて知っている人がいれば、紹介してもらいたいと意見があった。

また、地域の人たちがどのようなことを知りたがっているのか、或いは地域の人たちにどんなことを紹介すればよいのかということ、話し合えればよいと思う。

そしてもう1つは、昔のことを語り続けているような人がいれば、その人の話も聞きたいとの意見もあったが、そのあとは話が拡散的になってしまった。

すべてを網羅するわけにいかないと思うため、その中から集約していつてはどうか

との話で一応まとまった。

【田中副会長】

今ほどの説明でほとんど網羅されてしまうのだが、こちらのグループはテーマがあちこちに行ってしまう、まとまりがないような感じになってしまった。

例えば、人を呼んでどういうことを聞くのか、或いは内容はどのぐらいの大きさなのかということである。

人物と内容的なこととして、実際のページ数を考え、どの程度の内容にするのか。

項目的にはもう1つのグループと同様に、風土・自然・文化・歴史等が入ってくると思う。そういったことを考えると、大体5ページくらいになるのではないかと思っている。

また準備委員の選考については、大体5人から6人程度がよいと思っている。話を聞くにはたくさんの人から聞いてもよいと思うが、準備委員のメンバーとしては、5人から6人程度がまとまりやすいかと考えた。

次に、配布先についてである。

地元を中心として、興味を持ってもらう・認識してもらう、ということを目的として、そのような内容にしてはどうかと意見があった。あまり広げ過ぎても駄目だと思うが、やはり観光的な要素も必要だと思う。

風土・自然・文化・歴史といったことも少しずつ加味して、5～6ページくらいになればよいかと思っているが、決定にはならなかった。

【藤本会長】

事務局案を出したほうがよいか。

【山崎主事】

これまでの発表でほとんど網羅されていた。

【藤本会長】

では、大体そのようなかたちで、早急に検討を進めたいと思う。

【小林センター長】

早急に意見交換会の準備を進めたいと思う。

【藤本会長】

対象者を会議に招かねばならないこともあるため、段取りについては、事務局と正副会長で検討・調整することとしてよいか。

(よしの声)

誰を呼ぶかについては、本日出た意見を参考にしながら決定したいと思う。

この件に関して、何か意見等あるか。

(発言なし)

では来月の意見交換会に向けて、準備を進めたいと思う。

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」を終了する。

最後に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

【小林センター長】

- ・ 次回の意見交換会について説明
- ・ 前島密翁献碑祭について説明
- ・ 献碑祭への出席を確認

【藤本会長】

- ・ 前島密翁献碑祭：7月1日（金）午後2時30分から
 - ・ 意見交換会：7月11日（月） 午後6時30分から 津有地区公民館 大会議室
- その他、何かあるか。

(発言なし)

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。